

平成 27 年度第 1 回社会福祉審議会議事録

- 日時：平成 27 年 7 月 29 日（水）午後 6 時 30 分から午後 9 時 20 分
- 場所：大和市保健福祉センター 5 階 501 会議室
- 参加：

[出席委員] 15 名

木村委員、河端委員、高橋委員、金子委員、稲川委員、井上委員、小野委員、北林委員、桐原委員、鈴木委員、和田委員、前川委員、近藤委員、藤野委員、杉山委員

[事務局・担当課]

健康福祉総務課、健康づくり推進課、介護保険課、高齢福祉課、障がい福祉課、生活援護課、こども総務課、ほいく課、すくすく子育て課

【次第】

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 諮 問
4. 副市長あいさつ
5. 議 事
 - (1) 大和市社会福社会館条例の廃止について
 - (2) 地域福祉計画の進捗状況について
6. その他
 - (1) 今後のスケジュールについて
 - (2) その他
7. 閉 会

以下、要旨記録

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 諮 問
4. 副市長あいさつ
5. 議 事

- (1) 大和市社会福社会館条例の廃止について

担当課より資料に基づいて内容を説明。

委員 ひまわりサロンを別の場所で開催するなど代替案はあるか。

担当課 近隣のコミセンを使用することや、自治会館をお借りすることなどを候補として考えている。
今後担当課と調整していく。

委員 利用しているサークル等への説明はどのようにしているのか。

担当課 館内に張り紙をしているほか、出向いて説明もした。議会に諮ってからでないといえられない

こともあるので、詳細についてはまたあらためて説明していきたい。

委員 耐震性は大丈夫か。

担当課 東日本大震災前に計測したデータだが、そこからそんなに落ちてはいないと思う。耐震性に関しては、今すぐ使用を中止する必要があるような数値ではない。

委員 今後の動きについては、どこまで決まっているのか。

担当課 これから議会に上程するので確かではないが、解体については年度中、あらたな整備については新年度に行いたいと考えている。

会長 それでは、諮問に対する答申については、おおむね適当なものとして答申したい。答申書の文章はあらためて事務局と調整するということでよろしいか。

⇒全員承認。

(2) 地域福祉計画の進捗状況について

事務局より資料に基づいて内容を説明。

会長 説明にあったように、個別目標ごとに委員の意見を付与して公表するという事なので、意見を出してください。

委員 成果を測る主な指標の中で、最終目標値をすでに超えているものもあるが、これらは今後どうするのか。

事務局 目標値は計画で位置づけられているものなので、変更するものではないと考えている。他の参考指標を用いて評価することや、定量的な部分ではなく定性的な実績について評価することなど、別の方法を検討していきたい。

○個別目標1「福祉への理解と関心を高めます」について

委員 講座等の受講者数が増えていることから、福祉への関心が高まっていることは成果として見えるが、理解が深まっているかどうかは、どのように測っていくのか。例えばアンケート等を実施して、浸透具合や、その後の行動につながっているのか、などを把握することが重要なのではないか。

事務局 各事業でアンケートを実施している。来年度評価する際には、理解が深まっているのかも評価できるよう、検討する。

○個別目標2「地域福祉活動の担い手を育成し活動を支援します」について

委員 生活のあらゆる場面でサポートしていることから、ボランティアセンターの登録者数などを参考指標としてあげても良いと思う。

委員 介護予防サポーター養成講座受講者の活用方法や自主活動はどうなっているか。

担当課 実際、市内9か所の地域包括支援センターによっては取組みに差があることは認識している。そうした差を縮め、活躍いただけるように検討をしていく。また、地域によっては、地区社協等とネットワークを作り、取り組んでいる地域もある。

会長 東京都日野市では、高齢者の見守りネットワークに登録して活動してもらっている。

担当課 認知症カフェやサロンで活躍していただけたらと思う。

委員 それぞれの養成講座受講者の年齢層はいかがか。

担当課 介護予防サポーター養成講座は、ある程度年齢の高い方が多い。幅広い世代に受けていただき

たいと思っている。

担当課 ころころサポーター養成講座は、地域で活動するというよりも、自分や家族など身の回りの人の心のケアができる人を増やすものである。やはり40～60歳代が多い。

会長 自殺予防の講座を受けた人は、傾聴ボランティアなどをすると良いのではないかと。

担当課 フォローアップ研修で傾聴に関する講座を実施している。また、個人個人が地域で誰かをサポートしていくためのフォローは行っている。

委員 ピア相談については、相談員に対するバックアップが必要だ。

担当課 実際のニーズはあまりないと感じている。

委員 個別目標2の指標は累計となっているが、どのように集計しているのか。

担当課 ころころサポーター養成講座については、平成20年度からの受講者数を累計で出している。

委員 累計数を増やすことも大事だが、スキルアップの機会を設けるなど、リピーターに対するサポートが必要だ。

会長 母子寡婦福祉会への活動支援だけで良いのか。ひとり親のグループは学校単位、保育園単位などで数多く存在するはずである。

委員 寡婦という言葉が少し古いと感じる。ひとり親家庭とすべきではないかと。

会長 時代に合わせて、あらたな組織の形を考える必要がある。

○個別目標3「気軽に集える居場所や社会参加の場をつくります」について

委員 ひまわりサロンもミニサロンと同じようなものだと考えられる。ひまわりサロンとミニサロンの利用者数を合計するとさらに増えるのではないかと。

担当課 ひまわりサロンは市内14か所で実施しており、年間のべ約1万2千人が利用しているので、それを足せばさらに増える。

会長 多世代交流型サロンを意識してほしい。

委員 ぷらっと中央林間が載っているが、今後の展開の予定は。

担当課 南部・中部で検討中だが、物件がなかなか見つからない。多世代交流型サロンについてだが、中央地区で開いているサロンは、自治会や老人クラブ、地区社協、民児協など様々な団体により構成、開催されている。

○個別目標4「地域福祉活動団体との連携をすすめます」について

委員 避難行動要支援者支援制度について、支援をするほうも高齢化しているので、支援者探しが課題である。また、自治会の加入率が下がっており、非会員をどうするかもあるとあるので、今後の課題である。

担当課 本市は避難行動要支援者名簿の共有が比較的はやく進んでいる。現場の実態把握として、現在民生委員に取り組み状況のアンケートを実施している。そこから、良い事例やモデルを紹介して、今後の活動の参考にしていただきたいと考えている。

委員 自治会の非会員についても、民生委員はまんべんなくみている。理想はやはり向こう三軒両隣だと思うが、それがだめなら、民生委員がフォローしていく必要もあると考えている。

会長 新潟市では、中学生が取組みに参加している。

委員 南林間中学校では、リサイクルを中学生がやっている。今後、こういうことが必要だと思う。

会長 平日の日中に地震が起きると、地域にあまり人がいないので課題だ。

○個別目標5「支援が必要な人たちへの訪問活動を充実します」について

委員 乳幼児全戸訪問事業の訪問率は、なぜ目標が100%ではないのか。

担当課 生後約4ヶ月後の、乳幼児訪問時までの転出や死亡等による。

委員 特定保健指導対象者への訪問指導件数が増えているのはなぜか。対象者が増えたのか。

担当課 訪問の体制を強化した。

委員 それであれば、訪問率の方が良いのではないか。

事務局 併記する。

委員 緊急時に、民生委員と連携して対応することもあるが、やはり公的なセーフティネットが重要だと思う。

○個別目標6「相談体制を整え情報提供を充実します」について

委員 生活困窮者支援制度の今の状況はいかがか。

担当課 相談件数はかなり多いが、よろず相談のようなものも多く含まれている。制度によって自立した例は今のところまだない。

委員 県社協で、かながわライフサポート事業をやっており、現物給付も行っている。こことは連携しているか。

担当課 かながわライフサポート事業と対象者が合致するケースは少ないが、関係機関とは連携して実施している。この間のケースでは、フードバンクへ申請した。

会長 共助の基盤づくり事業を活用すると良い。コミュニティソーシャルワーカーが必要になってくる。

委員 婦人相談員は現在何名体制か。

担当課 2名である。

委員 子育て支援センターは何名体制か。

担当課 社会福祉士が1名、保育士が2名いる。

委員 子育てに関する窓口が減っているが、評価では充実となっているのはなぜか。

担当課 窓口の数に含めている公立保育園が一部民営化したため減った。民営化した3園も含め、7園で地域連絡協議会を開催している。

委員 指標の設定方法を検討したほうが良い。

○個別目標7「包括的で継続的な支援の体制を整えます」について

委員 個別の要保護児童等に関する具体的な支援内容等の検討、とはどのようなことか。

担当課 虐待等の課題を抱える児童について、116回の支援検討会議を行った。

委員 要保護児童と聞いても、一般の人は分からないと思う。虐待を受けている、などという言葉を使うと良い。大和市はケースカンファレンスなどを積極的に行っているほうだと思うので、参考指標にしてはどうか。

会長 地域包括支援センターでのケース検討件数が減っている理由は。

担当課 特にない。たまたまであると考えている。ケース検討会議にあげるものが減っただけで、実際の対応件数は増えていると感じている。

○個別目標8「地域で暮らしやすい在宅サービスを提供します」について

委員 訪問看護と併設している小規模多機能型居宅介護事業所の数は。

担当課 市内にはまだない。8月から募集を開始する。

委員 小規模多機能型居宅介護事業所を利用する人は多いのか。

担当課 現状では、市内の利用率は8割程度であるが、利用率は徐々に上がっている。また、今後は高齢化が進むため需要が増えるだろうと見込んでいる。

委員 グループホームとの併設で小規模多機能型居宅介護事業所を整備するのか。

担当課 今回は単独型で整備する。

委員 障がい者の短期入所施設の充実についてはいかがか。

担当課 空きがでてしまったときの保証ができないと難しいと考えている。

会長 医療機関での対応等は考えられないか。

担当課 法律が縦割りになってしまうので難しい。

委員 相談者の受講の見送りや不合格により、サービスの利用者が少なくなっているというのは、少し冷たい感じがする。

委員 ひとり親の資格取得と子育て支援はセットで考えるべきではないか。資格を取りたいと思っても、こどもの面倒に精一杯で取れない人もいる。

担当課 保育園との連携等はしている。

○個別目標9「権利擁護の仕組みづくりを推進します」について

委員 法人後見は本来市が取り組むべきものなのに、社会福祉協議会の法人後見の利用者はまだ多くないと評価するのは失礼である。市がもっと支援すべきである。

担当課 法人後見は重要だと考えており、まだ多くないという表現は、今後増加することが予想されるため、市が対応を検討していく必要があるという意味である。

会長 市民後見と法人後見はセットで考えなければならない。

担当課 市民後見のベースは法人後見であると捉えている。

委員 社会福祉協議会以外の法人後見は何かあるか。

担当課 他市には障がい者施設に通所する家族が立ち上げたNPO法人もある。他市のNPO法人を後見候補者として申立てをしたこともあるが、別の後見人が選任された。大和市社会福祉協議会を法人後見候補者として申立てしてきた中で外されたことはない。

6. その他

(1) 今後のスケジュールについて

事務局より、今後のスケジュールについて説明。8月5日(水)に指定管理者評価委員会を行う。次回審議会は2月頃を予定。

(2) その他

特になし。

7. 閉会

以上